



「瞬光朝陽、北岳に注ぐ」 撮影 森本聖治氏 北岳の肩より

### 中高年、磯香漂う伊豆天城ハイク

平成二十年十一月三十日(日)

会山行として、久しぶりの伊豆ハイキングになった。伊豆といえば海、海が目の前に波打っている。芦安ファンクラブの中高年は、磯には目もくれず、山、山にしか目が入らないようです。プランニングでは、「海好きの人達に救済の手を！」なんていう一節もあったような気がしたが、当日になれば結局、山登り。さすが芦安ファンクラブとゆうか、釣り好きの小生は少し意気憔悴である。

総勢十五名、伊豆半島のまんなかの天城山に向かって朝六時に芦安を出発。登山口の天城G、Cには一〇時頃到着。準備運動後、万二郎岳(一三二〇)、

万三郎岳(二四〇六)に向かって登山開始。万二郎岳を無事通過し、万三郎岳には十二時頃、全員無事登頂。富士に向かい、なぜか「パンザイ」

山頂より、西へすこし下った所で昼食かなと思ったら、小宴会が始まりました。ここで出来るサンプルのような集団である。一部の人は寒さの為早々下山を始め、暫らくして宴会組も、周回コースを一気に下山し、午後一時三〇頃全員無事に登山口へ到着。天気は快晴、万三郎からの富士山はすばらしく綺麗、海も青く広がり、おいしいおにぎりにも満足、いい事づくめでやっぱり、「山はいいな」となる。

本番の宴会を目指して松崎ホテルへ一目散。しっかり飲んで楽しんだのはいうまでもない。

### 十二月一日(月)

二日目は伊豆観光。朝九時ホテルを出発し松崎の町なかを散策。長八美術館、なまこ壁、足湯酒、土産屋さん等を楽しみ、次の目的地堂ヶ島へ。堂ヶ島では遊覧船に乗り島見物。帰りのバスの中では暇つぶしのビンゴゲームは以外に白熱し、二日間で一番の盛り上がりを見せた。賞品の力はすさまじい。山梨に入ってから軽く夕食をとりそれぞれに解散。楽しい二日間でした。

芦安ファンクラブ 伊東 隆雅記



万三郎岳にて富士と一緒にいい笑顔



策ヶ岳紀行

甲府盆地から眺めると、甲斐駒から南へ南アルプスの巨峰が並びその峰が尽きた所、少し手前には、小さな双耳峰、策ヶ岳が在る、それは、可愛くすらある。登山口、老平に着く、斜面高くまでお茶畑が並び、その上に冬枯れの山々が広がり、想像していたよりも明るい所だ。ゆつくりと身支度をし歩き始める、年期の入った大きなザツクのリーダー、小柄なIさんのザツクも大きく、Sさんのは重そうだが私はしんがりを歩く。直ぐに、車止めのゲートわきを通って集落を抜け奥沢林道に入る。谷は深く水の流れを遙か下に見て進み、身体が温まった頃林道の終点に着く。一休みして上着を脱ぎ山道に入ると、直ぐに一軒の廃屋が有り、主のいない庭先に柚子の実が黄色く色付き陽を浴びている。怪しげな橋を一人ずつ渡る。その後も幾つかの橋を渡り、ある橋の上でリーダーが、この橋から落ちて遭難した人の捜索に来た時の話をされた。この道をくたくたに疲れて下りたくはないと思つた。

びた機械やワイヤーが在る。昔の集材索道の残骸だろうか。やがて桧横手に近いのか、なだらかな台地上りつくとテントが一張り張つて在る。とりあえずザツクを下ろしテント場を探しに少し登るが良い場所も無く、ザツクの所に戻つて木と木の間やや広い所を整理してテントを張る。入口近くが低いのでそこに倒木を入れる、これが丁度良く、居心地の良い住まいになる。



大策、小策の策ヶ岳、深田久弥はこの山を日本百名山に入れなかったことを後に後悔したという。

Iさんが隣のテントに行き、「一時間先までトレースは付けて有る」との情報を得てくる。リーダーとSさんが大きな袋に炊事用の雪を集めて入口に置きテントに入る。早速、雪を溶かしてお湯を作り、つまみが出されてお湯割りを一杯二杯、餅入りの豚汁が実に美味しい。今日初めて一緒に登つたIさんだが、そこは山好き同士直ぐに打ち解ける。思つたより雪が少なく、明日早く登頂出

来たら、テントを広河原に移そうかと言う話も出る。シュラフにもぐり目を閉じると、テントを揺らす風もなく、冬山にしては異常に暖かい。数日前、北八ツのテントの中から「氷点下二十四度で寒くて眠れないよ」と言う友の電話がうそのようだ。

十二月二十九日

夜明け前の寒さも感じず目を覚ます。それぞれに朝食を済ませ、身支度をしてテントを出る。森の向こうの空が赤く染まる頃アイゼンを履きピッケルを持って出発。トレースが無くなると、思いの外雪が深く、交代でラッセルをする。リーダーの「代わります、お疲れさん」の声。私も真似て言ってみる。二時間掛つて稜線に立つ、此処が布引崩れと言う所か、茶褐色に大きく崩れている。南アルプス南部の山々を心ゆくまで眺め、山座同定をする。

崩れた縁を登り、樹林帯に入つてラッセルを続け、登り着いた頂には太い角柱に布引山と刻まれていた。徐々に深くなる稜線の雪はうっかりすると腰近くまで潜る。しかし、大策、小策を正面に見てのラッセル、風の無さも手伝つてさほど苦にはならない。少し下つた所が倉沢のコルで、ここから最後の登りに取り掛かる。

登りきつた頂の策ヶ岳の山名は半分雪に埋まり、布引山と同じ大きな角柱に刻まれていた。女性二人も笑顔で到着し、お疲れさん。Sさんは山梨百名山中、十九番目の頂に立った。頂から北岳方面の同定をするも、策は素晴らしい展望の山である。晴らしい展望の山である。朝食を済ませ、記念撮影をする、いつの間にか富士山に笠雲が乗り、北の山の上には銀色の雲が流れ始めた。そろそろ下り時、北岳に背を向けて、策を後にする。張り詰め、高ぶつた気持ち

でラッセルした登り、そして、満足感にゆつたりとした気分の下り、その気持ちのアンサンブルを楽しんでいる自分がある。

布引山で休憩し布引崩れを慎重に通過。稜線を外れ、足早に下り、傾斜の落ちた所の奥まった木立に、桧横手の小さな標識を見るとテントは近い。往復八時間のアルバイトにも、さほど疲れもせず、アイゼンを外しながら今日一日の楽しさが口に出る。テントに入り、少しばかり酒が進んだ頃、ご機嫌なリーダーの得意（定番ではあるが）な笑い話が出て皆で大笑い。

話しが来年行きたい山の事に成り、地域は東北、上越、北ア、南アの南部、屋久島ととめど無く広がり、味付けのバージョンは沢登りから岩登りまでの嗜好ときては、来年はひと月が八週位ないと登りきれそうにない。還暦が近い人、還暦の人、とつくに過ぎた人、いやはや、みなさん何とも元氣。

十二月三十日

昨日、富士山に笠雲が掛つたので、天気の前が星空だった。今日の先は星空だった。今日はのんびり出発とテントに戻り、残り物を集めて作った鍋一杯のおじやをとでも美味しく戴く。テントを撤収し、二日間お世話に成つたテント場に感謝し、下り始める。急な下りを過ぎ、やや傾斜が落ちた頃、水の音が聞こえる。冷たい水を思い切り飲みたいなどと話ながら広河原に着く。顔を洗い、飲みたかつた水で喉を鳴らす。後は平な道を二日ぶりに引き返す。廃屋の所で一休みし、老平へ戻つた。

芦安ファンクラブ 石川剛

# 「呼びかけ」

## 芦安のホタル

ホタルを通して、地域の自然環境について学ぶ、芦安小学校の総合的な環境学習

### はじめに

十六年度末、芦安地域の方が学校へホタルの幼虫を届けてくださった。かつて、この芦安でも御勅使川の支流であるあちこちの沢に、多くのホタルが生息していたようである。しかし、度重なる台風や大水で河川が反乱し、多くの被害を受けたことで治水工事が行われてきた。それとコンクリート水路や農薬の普及などが重なって、いつしかホタルの姿が消え現在に至っているとのことであった。生活環境が落ち着いてきた今、南アルプス市の誕生で、「芦安らしさの活性化を」と願う地域の取り組みが、「ホタル」につながったのかもしれない。

「地域の学校」「地域に開かれた学校」「特色ある学校づくり」は、この地域性を生かし、学習の中でも教材化していくことが大事であるとの考えから、頂いたホタルの幼虫を観察したり飼育活動をしたりしながら、地域の歴史や自然環境の移り変わり、そして、人々の願いなどを学ぶ機会にしたいと考えた。

### 平成二十年年度の取り組み

新年度のスタートに当たり、五・六年生で総合的な学習の時間で取り組むこととした。

地域の特性を生かした教材であり、豊かな自然の中で、より深く環境について学ぶことができると考えた。また、昨年末、地域のホタルを復活させよう

と考えている方々の支援も受けることができ、地域との結びつきや、地域の願いなどを体験的に学ぶことが期待できるようになった。

四月の段階では、芦安ファンクラブの支援で、昨年度卒業記念で作った「ホタル川」に、校庭南の用水路から豊富な水を引く工事をしていただいた。これによって、安定的にきれいな水を確保することができるようになった。



### 〈五月〜六月〉

再び種ホタルの採取と、幼虫の飼育に取り組みもうとしたが、この段階で、甲斐市竜王の「ホタル夢銀河の会」と、つながりのある保護者の中から、積極的に活動に参加してくださる方が出てきた。銀河の会の会長さんと共に、種ホタルの採取と、産卵・孵化、そして、学校でも飼育できるまでの幼虫育成をしてくださることになった。

### 〈七月〜八月〉

飼育してくださった夢銀河の会の帯金先生の所から、夏休み中保護者と一緒に、ペットボトルに数百匹の幼虫をいれ、学校の水槽に移しかえた。それからは、保護者が仕事帰りに八田地区からカワニナを採取してくださったり、教師が採取しに行ったりして、餌の確保をしてきた。また、自然の中でカワニナが増やすことを考え、「ホタル川」にも、採取し

てきたカワニナを放流し続けた。



### 〈児童の新学期八月下旬〉

今までの経過を児童に伝え、その後、総合的な学習の時間で自分たちができる今後の活動を確認した。

- ・水槽内の水の交換
- ・カワニナやり
- ・水槽内の幼虫の観察
- ・ホタル川の観察等



### 〈十月〜十一月〉

「ホタル川」のある、中学校の池周辺の草刈を、毎年業者に依頼していたが、今年は、小学校児童が「ホタル川」の環境を考え、作業することにした。作業を開始しようとした時、蛇と思われぬ出会いを。かつて「ホタル川」を作っていたとき、作業を指示してくださった理科支援員の長田先生が「より

自然の川になれば、いろんな生き物が集まってくるよ。蛇だって・・・。」と、言われたことを思い出した。子ども達とそれを確認すると、怖い思いも半分、願い通りの川になったうれしさ半分、複雑な心境でその後の草刈をした。また、川から水が漏れる所の補修も行った。このとき使った粘土は、芦安ファンクラブの清水さんから提供していただいたもので、かつて白根山大崩落の時の堰止湖の跡からとれた、芦安地域の純正のものだった。また、近くの沢から石や砂を持ってきては、補強作業もした。

### 〈十一月二十九日(土)〉

「地域ふれあい道徳」に合わせ、学校で飼育していた2つの水槽のうち1つから、幼虫を取り出し、第1回目の放流を行った。そして、今まで支えてくださった地域の方やファンクラブの清水さん、それに、夢銀河の会の方々と一緒に放流と、その後の道徳の授業に参加していただいた。そこでは、授業前に放流した感想を児童、地域の方々に話してもらい、郷土愛や自然愛護と言った心情をみなで語る機会ともなった。児童にとっては、今までホタル活動を継続してきていたとは言え、シーズンを過ぎていたこの時期、地元芦安にホタルを復活させたいと願う大人の思いや、実際に保存活動をしている夢銀河の会の方からうかがう郷土を愛する思いを聞くことで、再び次への活動意欲や、自分たちがやっていることの意味を深く認識することができたように思う。芦安ファンクラブの清水さんが話してくださった、十五年ほど前まで飛んでいたホタルの光を、もう一度この芦安に取りもどしたい、



という思いと共に「小学校の子ども達が、ここまで一生懸命にホタルを育ててくれていることに感謝したい。」という言葉は、子ども達にとって活動への自信ともなったと思う。「自分たちは、地域の役に立っている。」と、感じたに違いない。道徳の授業が終わり、子ども達が移動した後の教室で、夢銀河の会の方に「家庭でこのホタルの飼育ができるのしょうか。もし、各家庭でもできるのなら、協力したいという地域の人は多いと思います。学校だけではなく、協力してくださる家庭でも幼虫を育て、また、川に放流できたらもっとたくさんホタルを見ることができないのではないしょうか。ぜひ、実現したいです。その折には、具体的なことを、もつと教えてくれませんか。」という話す保護者の方がいた。

かつて、違う地域の学校に勤務していた頃、やはり豊かな自然の中、かつてはホタルが乱舞していたことを児童が話した一言をきっかけに、環境学習として「蛍復活活動」に取り組んだ。児童が積極的に活動したその模様は広く地域のも知られたが、児童の卒業、担任の移動等で幕が閉じられてしまった。「学校の勉強では、なかなかいいことをやっているね。」で、終わってしまったことがあった。それを考えると、この芦安で、これだけ地域や保護者が学校と一緒にあって、愛する地域の自然を考え、行動を起こしてくださる方々がいることに感謝に耐えない。また、地域の学校で教育活動をしている喜びを感じざるを得ない。

今後は、芦安ファンクラブの方々ははじめ、協力してくださる皆さんと「大好きな芦安・ホタル復活大作戦」の広

がりを、具体的に展開していきたいと思う。

芦安小学校教諭 沢登記



育てた蛍の幼虫とカワニナを水槽から拾う



みんなで蛍川へ放流。無事に生育してくれよ！

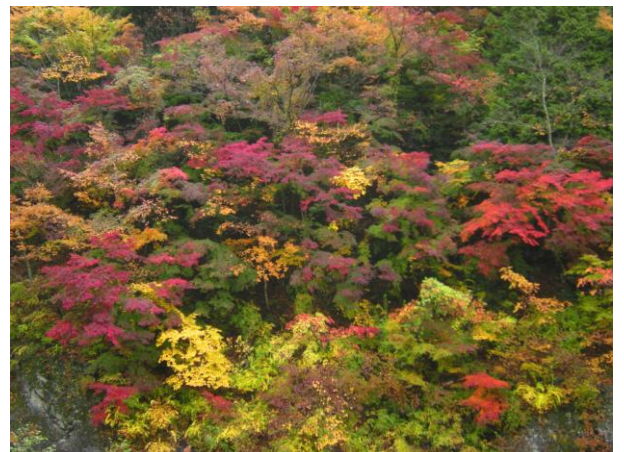
**紅葉祭り金山沢公園で開催**

第六回南アルプス市芦安紅葉祭りが平成二十年十一月八日(土)に行われしました。周囲は今を盛りと美しく着飾った山々と木々の紅葉なれど、あいにく朝から小雨が降る寒い中の祭りとなり、残念ながら例年行われる夜叉神太鼓の演奏は中止、ちよつと寂しい感じのオープニングになりました。

しかしこの祭りを心待ちにしていた地元の方々に始め大勢の人達が集まり次第に賑やかさを増していきました。我々芦安ファンクラブは、恒例のみそ饅頭の製造販売を担当しました。

年一回とはいえ、それなりに手馴れたメンバーが、前日にS製菓店の全面的な協力をいただきながら腕を振るい、見事に約六百個の味噌饅頭を作り上げました。当日は、現地ではセイロを使い、蒸しながら温めてみその香りを漂わせました。店先ではファンクラブのきれいなお姉さん方が笑顔を振りまきながらの販売促進のお陰で、そばの会に遅れることわずか、早々と完売し、過去最高の売り上げでした。皆さん本当にご苦労さまでした。祭りは、カラオケ、コーラス、地元のきれいな元乙女たちが美しい衣装でフォークダンスなどを踊り、盛り上げてくれました。午後には雨も止みフィナーレにはワインや米などが景品の抽選会が行われ、楽しかった祭りも無事に終わりました。この祭りも行政主体の運営形態は今回が最後ですが、芦安地域の皆さんは今後の継続に前向きです。この紅葉祭りが益々盛会に行われ、芦安地域の活性化に繋がるように地域の皆さんと一緒に盛り上げていきたいと思ひます。

芦安ファンクラブ 宮下 記



すばらしい紅葉と地域の特色が一杯の紅葉祭り

